



南部町立南部中学校 学校だより 第7号

# 千ーム南部中

令和2年 7月28日 (火)

校長 望月和彦

## コロナ対策のもと、待ちに待った峡南地区総体！



新型コロナウイルスの影響で、4・5月に実施される選手権大会が地区大会、県大会ともに中止になり、6月に予定されていた地区総体も延期になりました。関東大会・全国大会の中止も決定するなかで、総体の開催も危ぶまれていました。しかし、主催者である山梨県小中学校体育連盟及び同峡南支部は、総体は運動部の生徒にとって最終の目標であり、3年生にとっては部活動の集大成の場、締めくくりの大会であることから、周辺地域の感染者の状況を考慮し、可能な限りの安全対策を考えた上で、県大会及び峡南地区大会を実施する準備を進めてきました。

そして、できる限りのコロナ対策を施した上で、7月18日・19日・23日の3日間、峡南地区総合体育大会が開催されました。3月から5月までの3ヶ月間、部活動は停止となり、6月に再開してからも感染症対策のガイドラインに沿った制限された



内容で、生徒たちは我慢しながら、できることに精一杯取り組んできました。やりたい練習が思う存分できなかつたり、練習試合も直前までできなかつたり、生徒たちにとっては辛く、悩ましい日々でしたが、ついにやってきた待ちに待った大会でした。こまめな手指消毒や用具の消毒、試合に出ている選手以外のマスク着用、健康チェックカードや参加同意書の提出、開会式・閉会式の縮小、応援の制限、対戦中の学校以外は会場外での待機、3年生の保護者のみの参観など、各会場ごとに細かな感染症対策のルールを設けての特別な大会でした。それでも、本校の選手たちだけでなく、他校の選手も、久しぶりの公式試合ができる喜びをからだ全体で表現しながら、精一杯プレーしていました。特に3年生にとっては、3年間の努力の成果を試す場が開催できたことは本当に良かったです。峡南地区総体での本校選手の結果は次の通りです。

| 部名         | 峡南地区総合体育大会の結果  |
|------------|--|
| 男子バレーボール   | 市川中、三珠中ともに2-0で勝利し、「優勝」   |
| 女子バレーボール   | 予選リーグで市川中、増穂中に勝利し、準決勝三珠中に2-0で勝利、決勝は増穂中に1-1のポイント数で勝利し、「優勝」                            |
| 野 球        | Bパート決勝で増穂中に5-0で勝利し、「パート優勝」   |
| 男子バスケットボール | 増穂中と市川中に善戦するも敗退。2敗   |
| 女子バスケットボール | 増穂中と市川中に善戦するも敗退。2敗。  |
| 男子ソフトテニス   | 個人戦：千月・五十嵐組がベスト8、<br>旗持・佐野組、武川・望月組、河内・芦澤優組は2回戦進出、他は初戦敗退<br>団体戦：鯉沢中に1-2で敗退、増穂中に1-2で敗退 |
| 女子ソフトテニス   | 個人戦：仲亀・田中組がベスト8、遠藤・早川組は2回戦進出、他は初戦敗退<br>団体戦：市川中に1-2で敗退、増穂中に0-3で敗退                     |

## 部活動で学ぶもの、得るもの

中学校生活のなかで、授業時間の次に長い時間をかけているのが部活動です。生徒たちは、部活動のなかで、個人の目標やチームの目標を立て、それぞれの目標目指して仲間と力を合わせて活動に取り組んでいます。本番の試合やコンクールで目標としてきた勝利や目指してきたプレーや技術ができた生徒は、大きな達成感や満足感を味わうことができ、自分に自信を持つきっかけにもなります。周りからの賞賛も受けるでしょう。では、目標としてきた勝利や満足いくプレーができなかったらそれまでの活動は意味がなかったのかというと、決してそうではありません。残念だったり、悔しかったりする気持ちは残ると思いますが、もっと大切なものがそれまでの練習を含めた過程のなかにあるからです。大会で好成績を挙げた人の中には、高校や大学でもその競技を続ける人もいるでしょう。でも、中学時代の部活動で経験した競技や技能を趣味や楽しみとして続ける人はあっても、その競技や技能で生計を立てていく人（プロのスポーツ選手や芸術家など）はほんの一握りです。では、なぜ部活動にこんな多くの時間をかけるのでしょうか。それは、勝利する喜び、技能の向上以外にも大切なものを部活動で得たり、学んだりすることができるからです。目標実現のために苦しいことにもあきらめずに頑張ることができる力、仲間と一つの目標めざすことの楽しさやチームワークの大切さを知ること、失敗や敗退にくじけずそこから学び向上しようとする姿勢、部活動や試合ができることに感謝する気持ち、チームメイトや応援してくれる人・競技役員さらには対戦相手など



すべての人に感謝する気持ち、礼儀やマナーなど、競技を辞めたとしても、それからの人生に役立つ力を身につけたり、大切な心を学んだりすることができるからです。何よりも共に目標目指してがんばってきた大切な友を得ることができるからです。本校の部活動は、それらの教育的な意義を大切にして運営されています。大会の結果にかかわらず、すべての生徒たちが部活動の中で心も体も成長しています。

7月25日から8月10日までは県総体が開催されます。すでに試合が終わった部もありますが、3年生を中心とする本校選手たちが持てる力を思う存分発揮できることを願っています。今年度の県大会は、地区大会が実施できないところがあるため、野球以外はオープン参加です。なお、多くの会場では保護者が観戦できないルールがあるので、ご注意を！

## 吹奏楽部、美術文芸部もがんばっています！

吹奏楽部は、例年の1学期なら、入学式での入場のBGM演奏、「たけのこまつり」への出演、町内福祉施設への「訪問演奏会」、「総体選手激励会」での演奏、「ソロコンサート」への出演、7月には「山梨県吹奏楽コンクール」に向けて猛練習をしているところです。しかしながら、今年度は感染症対策のため上述の行事がすべてなくなり、みんなで大勢の前で演奏する機会がなくなっていました。顧問の小池教諭、飯島教諭と相談して、吹奏楽部のご家族など吹奏楽部を応援する方々へ演奏動画を配信することにしました。Googleドライブで、臨時休業中に文書で連絡しましたIDとパスワードを入力すると視聴できるようになっています。是非ご覧ください。

美術文芸部は、9月の輝城祭に向けて作品製作に取り組んでいます。作品は、切り絵や紙粘土を使ったオブジェ、絵画など様々ですが、一人ひとりの個性溢れる作品に仕上がっています。今年度も、輝城祭のプログラムには、美術文芸部のパフォーマンスが入る予定です。昨年度は大型切り絵のLIVEを発表してくれましたが、今年度はどんな発表をしてくれるか楽しみです。